

5年生大好き！ ～年長組と5年生の交流～

習志野市立大久保東幼稚園教諭 みやね なおこ 宮根 直子



1 はじめに

本園は、隣接している小学校の5年生と交流活動を行っている。交流内容や幼児・児童に身に付けさせたい力、そのためにどんなグループやペアを作るかなど、5年生担任と事前に行う話し合いを大切にしている。ここでは、本園における実践を紹介したい。

2 交流活動について

(1)「第1回～速く走る方法を教えてもらおう！～」

- ① 5年生の代表が手本として校庭を走る。
- ② 5年生と幼児混合の8人程のグループになり、速く走るコツを5年生に教えてもらう。
- ③ 「練習タイム」を行う。
- ④ 5年生からアドバイスをもらう。

交流会後は、「腕をたくさん振るって言った！」、「走ろう！」と園庭を繰り返し走る姿が見られた。

(2)「第2回～絵本の読み聞かせ～」

5年生に、幼児が好む絵本を事前に選んでおいてもらう。

- ① ペアや3人組でふれあい遊びをする。
- ② 絵本の読み聞かせをしてもらう。
- ③ 感想を伝え合う。

始めは、向かい合った状態で読み聞かせをしてもらう姿が多く見られたが、次第に隣同士になり、体も心も距離が近づいた。

(3)「第3回～鹿野山宿泊保育について教えてもらおう～」

- ① ペアや3人組でふれあい遊びをする。
- ② 鹿野山について教えてもらう。
- ③ 感想を伝え合う。

鹿野山宿泊保育当日のハイキングでは、「5年生が教えてくれたモグラの跡だ！」「本当に道がフカフカしている！」と感激していた。

(4)「第4回～キャッチ・ドッジボール～」

- ① 5年生同士のキャッチボールを見る。
- ② 5年生とキャッチボールをする。
- ③ アドバイスをしてもらう時間をとる。
- ④ ドッジボールをする。
- ⑤ 感想を伝え合う。



ペアでキャッチボールやドッジボールに取り組む中で、5年生が幼児に合わせてボールを投げる距離や速さを変えたり、幼児がよりボールに触れられるように譲ったり、認める言葉をかけてくれたりしたことで幼児の満足度は高まり、夢中になって遊ぶ姿につながった。その後の保育でも積極的にドッジボールを行い、存分に力を発揮するようになった。

3 おわりに

幼児は、交流を通して5年生に認めってもらったことが自信となり、遊びが更に豊かになった。5年生は、幼児に合わせて関わることで、相手の立場で考え行動することができるようになった。これは、交流会に至るまでの教員同士の計画的、継続的な打合せがあったからこそである。今後も互いに高め合えるような交流を進めていきたい。

2020年プログラミング教育実施に向けて

～学校CIO機能を活用して～

県総合教育センターカリキュラム開発部メディア教育担当

新学習指導要領の完全実施まであとわずかである。これまでも本誌では、市町村間のICT環境整備状況の格差や、環境整備の必要性、更には人材育成について述べてきたが、今回は、学校CIOの立場からプログラミング教育実施について考察してみたい。

学校CIO (Chief Information Officerの略)とは、校長、副校長または教頭が、地域レベルのビジョンなどに基づき、各学校レベルでICT化をマネジメント、実行するものである。

文部科学省による「学校のICT化のサポート体制の在り方に関する検討会」報告書には、以下のとおり学校CIOの機能・業務の例が以下のように示されている。

- ・情報化に関する教職員への意識付け
- ・校内における情報化のマネジメント体制の整備
- ・授業でのICT活用や情報教育に関する指導計画の策定・実施
- ・校内における機器・システムの提案、整備、活用
- ・情報化に関する校内研修の実施 等

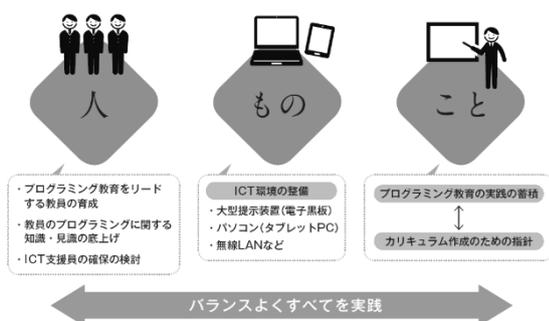


図 ICT CONECT 21 『小学校プログラミング教育導入支援ハンドブック2018』より

つまり上図のように「人・もの・こと」を意識してバランスよく整える必要がある。現

状では、地域によってICT環境の整備状況が大きく異なる。しかし今は、現状可能なことを進めるとともに、今後必要になる環境の確認や改善要請は済んでいるか自校の状況に目を向ける必要がある。

新しい小学校学習指導要領解説に、算数、理科、総合的な学習の時間におけるプログラミング教育が例示された。例えば正多角形の作図(5年算数)を「Scratch2.0」を使って計画する。しかし、本年「Scratch」は2.0から3.0へとバージョンアップし、多くの学校で使われているブラウザ(インターネットエクスプローラー[IE])では動作しなくなった。IEに代わるソフトはインストールされているか、確認する必要がある。

また、マイコンボード系の教材を使って理科(6年)「電気の性質や働き」の学習を進めようにも、USB接続によりプログラミングをダウンロードして動作させるタイプのものについては、セキュリティの関係で読み込みが不可能な市町村もある。当該教育委員会に相談し、早急に検討する必要がある。その際、学校CIO及び学校CIO補佐官(副校長、教頭、教務主任、情報教育担当者等)の知識、見識の底上げが重要なカギとなる。

その他、理科備品として購入が可能なものはないか情報収集に努める一方、理振による購入実績があるマイコンボードタイプの教材にも注目する必要がある。当センターとしても最新情報を提供していくので、学校CIO機能を活かし、市町村教育委員会、学校間の連携を密にして、早急にバランスの取れた準備を進めていただきたい。